

「いただきます!!」のころ

大地からいただきました
 ものばかり
 それをきざんで命にする

おねぎさま
 れんこんさま

人参さま
 たくわんさま

俎板まないたの上に
 人参さま
 おねぎさま
 れんこんさま

俎板まないた

宇野正一

へび かえる の 蛇が蛙を呑む。これを見ると、蛇とはなんと残酷な、
へび といって石を投げつけて蛇を追いやろうとする。ところが
へび かえる の 蛇が蛙を呑むのが残酷だという人間がもっと残酷なこ
ざんごく とをやっているのではないか。

(中略)

人間は食べ物を食べないと生きておれません。我々は
 それを食べますけれども、そこに食べるひとつの心持
こころも があると思います。食前に合掌するのは、単にエチケッ
がっしょう トではなくて、自分に命をくれて、自分の命とひとつにな
がっしょう ってくれるもののために合掌するのです。人間も自分の
 命を保つためには、弱いものの命をとらねばなりません。
がっしょう 弱いものの命をとるときには、せめて合掌して「いた
 きます」というべきではないか。犬や猫も弱いものを食べ

がっしょう る。しかし彼らは合掌することができない。ここに人と犬猫との違いがあるのではないか。地獄の赤鬼・青鬼なんていう
 が、他の生き物の命を奪い、食べている私たち人間が
あんがい 案外それだったのではないか。赤鬼・青鬼が背広を着
 てめがねをかけて、ネクタイ結んでいたりする。そういう
 ものではないか。地獄に赤鬼・青鬼がおるのではなくて、
 生きている我々が赤鬼・青鬼なのではないか。そう
 いうことを感じるのが非常に大事なのではないか。そ
 れが感じられて、はじめて人間になれるのではないか。
 やっていることは鬼のようなことをやっていますけれど、
 人間はそういうことをやっているなど、気がつくところに
へび かえる の 人間があるのではないかと。蛇が蛙を呑んでも、そう
 いうことに気がつかん。犬や猫はものを食べても、そう
 いうことに気がつかん。そういうことに気づくところに人
 間があるのではないか。形だけの人間で内容まで人間
 になっているかどうか、よく考えてみたいものです。

米沢 英雄

(注：文章は原文より一部手を加えています)

この時期、なぜか気ぜわしいと感じるのは私だけでし
 ょうか。12月の声を聞き、ぼちぼち身の整理をと思
 い、古いファイルを整理していたら、上のような文章が
 目にとまりましたので掲載しました。

高月中に来て、おいしい給食を毎日いただいています。
 生徒の皆さんは小学校からこの給食を食べているのであ
 まり思わないかもしれませんが、高月の給食はひと味違
 うような気がします。【注：誤解しないでほしいのですが
 ・ ・ ・給食センターで扱う食事数(規模や条件)が違う
 ので、他がまずいと言っているわけではありません！】

家でも学校でも私たちは毎日食事をいただきます。人
 間ですから「おいしい」とか「苦手なメニューだ」と生
 意気を言う時もありますが、その食事はすべて他の命を
 いただいているのだという気持ちを忘れないでいよう
 と思います。だから、好きなものも苦手なものも、残さず
 いただくことを心がけています。

お金はなくても

まわりの人を幸せな気持ちにする「七施」

- 眼施 . . . 優しいまなざし
- 和顔悦色施 . . . 和やかな笑顔
- 言辞施 . . . 心のこもったいたわりの言葉
- 身施 . . . 体でできる奉仕
- 心施 . . . 思いやりの心、心配り
- 床座施 . . . 席をゆずるやさしさ
- 房舎施 . . . 困っている人を家に泊めてあげる

今の時代には、
ちょっと怖い？



ブロック駅伝がんばりました

11月8日浅井グランド

11月3日の市民駅伝に続き、11月8日には長浜市・米原市の選手が集い、ブロック別駅伝が実施されました。本校からは男女が2チームずつ出場しました。惜しくも県駅伝への出場権は得られませんでした。この日まで朝夕練習に励んでくれた選手のみんなは、全力を出し切りました。



第70期生徒会

新役員が決まりました

生徒会長	那須さん	
副会長	山仲さん	嶋田さん
書記長	大音さん	
執行部員	高山さん	三田村さん
	野村さん	後藤さん
評議委員	川崎さん	保積さん
風紀	橋本さん	山岡さん
環境	津田さん	阿閉さん
保健	安済さん	平居さん
広報	東さん	片桐さん
図書	齊藤さん	浅見さん
体育	嶋田さん	山口さん
給食	馬場さん	竹中さん

がんばってください！

12月の予定



- 5日(月)～9日(金) 人権週間
- 9日(金) 人権落語 切磋亭琢磨さん
- 16日(金)～21日(水) 保護者懇談
- 22日(木) 2学期終業式
- 26日(月) 生徒会リーダー研修会
- 28日(水)～1月3日(火) 学校閉校日

1月



- 6日(金) 3年生実力テスト
- 10日(火) 3学期始業式
- 11日(水) 1・2年生確認テスト
- 12日(木) 身体測定 数・英テスト
- 17日(火) 新入生入学説明会

のび太の力強い成長

「ドラえもん」は、藤子・F・不二雄氏の作品で、短・長編1346話で成り立っています。

この「ドラえもん」を研究しておられる富山大学の横山泰行名誉教授のエッセイを参考に、「のび太」について書いてみます。

のび太は全作品に登場している唯一の主人公であり、吹き出しの数はドラえもんの1.5倍、登場回数は1.7倍です。のび太は「勉強もだめ、スポーツもだめ」さらに、ジャイアンに暴力をふるわれたリスネ夫に仲間はずれにされたりして、「ドラえもん」と泣きつくシーンが計199回も描写されています。では、のび太はグズでノロマで気の弱い男の子の代表なのでしょう。

のび太は小さい頃から大の泣き虫で、おばあちゃんは転んで泣いているのび太の目の前で、ダルマさんをコロコロと転がし、なんべん転んでも、泣かないで「ピタ」と起きあがる、ダルマさんみたいになってほしいと諭します。幼稚園へ行く前ののび太は、「ぼく、ダルマになる。約束するよ、おばあちゃん。」と答えています。おばあちゃんが亡くなった後、小学4年生になっても、のび太は目の前のダルマを見ながら「ぼくひとり起きるよ。これからも何度も何度も転ぶだろうけど……。必ず起きるから安心してね。」と自己宣言しています。(参考:PHP平成25年2月号)



何回転んでも、あきらめず立ちあがる。これを『七転び八起き』と言います。2学期末テストは終わりました。結果に落ち込む人もいるかもしれませんが。のび太も何度も0点を取り、先生に怒られたり失敗を重ねますが、最後にはしずかちゃんと結婚して幸せになります。「あきらめない」「転んでも立ちあがること」です！